

会議録（要点筆記）

会 議 名	第 1 回 米原市総合教育会議
開 催 日 時	平成27年 5 月18日（月） 9 時30分～11時00分
開 催 場 所	米原市役所山東庁舎 2 階 会議室 2 AB
出席者および欠席者	<p>構成員</p> <p>平尾道雄市長、山本太一教育長、稲村邦夫教育委員、河居郁夫教育委員、小路芙美恵教育委員、本庄通子教育委員</p> <p>事務局</p> <p>田中祐行政策推進部長、田中博之教育部長、岩山光一こども未来部長、宮崎幹也教育部次長、安食こども未来部次長、仲谷良徳教育総務課長、岡田克美学校教育課長、桂田峰男歴史文化財保護課長、山田英喜政策推進部理事、小寺真司政策推進課長補佐ほか担当職員 2 人</p> <p>傍聴者</p> <p>1 名</p>
議 題	・米原市の教育について
結 論	・今回の会議での議論を基本に、次回から大綱に盛り込むべき内容について協議していくこととし、最終的には、平成28年度に策定予定である米原市教育振興計画に合わせ、大綱の策定を行っていくこととする。
審 議 経 過	<p>事務局</p> <p>1 開会 （事務局から開会あいさつ）</p> <p>市長</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>・市長部局と教育委員会がしっかり連携強化し、子どもたちをどのように育てていくのか、教育の在り方や、教育が目指すべき望ましい将来像について意見交換し、地域の思いや願い、米原市独自の方向性を議論していきたい。</p> <p>委員、事務局</p> <p>3 自己紹介</p> <p>・構成員、事務局の順で自己紹介</p> <p>事務局</p> <p>4 会議の運営について</p> <p>（1）米原市総合教育会議の概要について（資料 1）</p> <p>事務局から、米原市総合教育会議概要版（資料 1）に基づき、米原市総合教育会議の設置趣旨等を説明した。</p> <p>米原市総合教育会議の方向性として、今年度は、教育、学術および文化振興に関する総合的な施策の大綱の策定に関する協議（大綱に盛り込むべき内容の検討）、教育に関する重要施策の方向性の検討（新年度予算など）について、年間 4 回程度の開催を予定していること、児童・生徒の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき施策は、緊急事態が発生した場合に随時開催することを説明した。</p>

事務局	<p>(2) 米原市総合教育会議規則について(資料2)</p> <p>総合教育会議に関する規則について、資料2のとおり説明した。</p>
事務局	<p>5 協議項目</p> <p>(1) 米原市の教育について</p> <p>米原市教育振興基本計画の概要について(資料3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 米原市教育振興基本計画は、概ね10年先における教育の姿を見据えた計画で、総合計画と同じく平成28年度を目標年次としている。学校における教育環境だけでなく、子ども同士や親同士がともに学び合い育ち合う環境、さらに学校・家庭・地域がそれぞれの責任を果たしながら、連携して子どもを育てる環境をつくること、子どもたちの成長をみんなで支え、子どもから大人まで全ての市民が生涯にわたって学び合い育ち合い、様々な場面で活躍できる人づくり、学びのまちを目指していることなどを説明した。
委員	<p>協議要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までからも市長と教育委員会は連携していたが、本会議の設置により改めて、市長・教育委員会の連携が必要であると考えており、有意義な会議としたい。 教育行政は、10年、20年先のビジョンを描くこと、地域のニーズにどのように応えていくかの2本柱で進めることが大切である。教育は、「学び合い」、「育ち合い」、「支え合い」が大切。教育にはこの「合い」すなわち「愛」がなければならない。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 学校の先生も生徒の減少で少なくなっているので、できるだけ多くの地域の方に学校に関わってもらって「学校応援隊」を作って、地域とともに歩む学校づくりを進めたい。また、子どもから大人も学び合う「学びのまち米原」でありたい。学校の授業の中でも、子どもたちが共に学び合い、育ち合い、支え合うことが大切である。県の基本計画にもある学び合いがテーマになるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いに共感している。ルッチ大学を卒業した方も、まちづくり、ひとづくりに協力している。卒業しても学び合うことは良い。義務教育は、子どもの育ちに重要な時期なので、米原市のDNA(郷土愛)を受け継ぐ教育をして欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域と学校のつながりが、子どもから大人までの学びにつながる。地域の人材を生かした地域とともに歩む学校づくりを進めて欲しい。

教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・大原小では、夏休みの除草作業でPTAだけでなく、学区民の方に参加していただいている。そういう地域とともに学校を支える精神の広がりを持っている。その中から応援隊をつくり、社会で学んできたことを学校で教えていただけると良い。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・米原ならではの教育へのこだわり、義務教育の期間を米原で育った価値が、魅力となるよう位置付けたい。自然環境の豊かさ、小規模校ならではのきめ細かな教育が受けられるなど、学びのまち米原をシティセールスしていきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学力状況調査の生活アンケートで、子どもの自尊感情が全国平均よりも低い。自分が大切にされている、認められていると感じている子が少ない。家庭や地域など、人との関わりに物足りなさを感じているのではないか。地域や自分自身に誇りをもち、自尊感情を高めれば、地域を大切にし、学力も伸びてくるのではと感じている。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・米原市に暮らしている人が、米原が良いと思いついてくれるようになることが大切である。地域が持っている個性や特性を教育やまちづくりの将来展望として出していくことが大切である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その年代に合わせた地域活動をするのが大切ではないか。米原市では、「伊吹山へ登ろう」、「ふるさとを描こう」、「本を読もう」の活動を継続している。このような地域と関連する体験を、幼少のころから継続して行うことが大切ではないか。体験活動を通じた特色ある学校経営をして欲しい。また、最近では、先輩が後輩を教えることが少なくなり、簡素化が進んでいる。学校教育も地域のまちづくりでも同じ、人と人との関わりを持ち、共に議論を交わすことが大切ではないか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べ学校現場が忙しくなっており、教師同士が授業について語り合ったり、活動したりするゆとりがなくなっている。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・先生には、少しでも多くの時間子どもに向き合ってもらいたいので、時間を取られている事務処理に事務員を置いて対応するなど手立てを打つべきだと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートから、保護者は子どもに思いやりや、やさしさを重視している。自分を大切にすることができると、人へのやさしさにつながる。いろんな年代と交流することが大切ではないか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方の発信の仕方について、100%自信がないと発言しない子が多いと感じている。伝える力の育成が大切である。

市長	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人は遠慮が美德とされてきたが、考え方も変わってきた。自分の表現の仕方を間違えると、自信を失うことにつながる。コミュニケーション力や人との交わり方を学ぶことは大切である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・米原で育った良さ、歴史の良さを家庭の中で伝えていく必要がある。子ども達が、素晴らしい自然に恵まれていることを実感させるためにも、米原の良さを発信していく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・柏原小学校では、地域の人が学校に行って活動をしている。この動きが大切になると思う。学校に地域の人が入って、先生や地域の人に褒められると自尊心が高まると思う。また、学校も生徒数が少なくなり、部活動の数も減っている。総合型スポーツにウェイトを高める必要がある。地域の人とも触れ合えることができるし、地域の人に褒められると子どもの自尊心も高まる。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議で議論した内容を整理し、次回から大綱に盛り込むべき内容について協議していくこととし、最終的には、平成28年度に策定予定である米原市教育振興計画に合わせ、大綱の策定を行っていくこととする。 <p>5 閉会</p> <p>午前11時終了</p>

会議録（要点筆記）

会議名	第2回 米原市総合教育会議
開催日時	平成27年8月7日（金）16時～17時30分
開催場所	米原市民交流プラザ 2階 研修室
出席者および欠席者	<p>構成員</p> <p>平尾道雄市長、山本太一教育長、稲村邦夫教育委員長、河居郁夫教育委員、小路芙美恵教育委員、本庄通子教育委員</p> <p>事務局</p> <p>田中博之教育部長、岡田克美学校教育課長、仲谷良徳教育総務課長、藤岡保教育総務課長補佐、山田英喜政策推進部理事、小寺真司政策推進課長補佐ほか担当職員2人</p> <p>傍聴者</p> <p>1人</p>
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・米原市教育大綱の位置付けと期間について ・米原市教育大綱に盛り込むべき内容について
審議経過	<p>事務局</p> <p>1 開会 （事務局から開会あいさつ）</p> <p>市長</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>・前回5月18日の第1回の会議では、米原市の教育について、地域とともに歩む学校づくり、また、学び合い、育ち合い、支え合う教育の必要性など、委員の皆様方から様々な貴重な御意見を賜りました。</p> <p>本日は、米原市教育大綱の策定について、具体的に大綱に盛り込むべき内容を御協議いただきたく、皆様から忌憚ない御意見を賜りたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>事務局</p> <p>3 協議事項</p> <p>（1）米原市教育大綱の位置付けと期間について（資料1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料1に基づき、米原市教育大綱の位置付けと期間について説明した。 <p>米原市教育大綱は、平成28年度に見直しを行う「米原市教育振興基本計画」の骨子となる部分をもって大綱として定めるものとし、その期間は、平成29年度から平成33年度までとすることを説明した。</p> <p>事務局</p> <p>（2）米原市教育大綱に盛り込むべき内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回会議で出たキーワードについて（資料2） ・事務局から資料2に基づき、第1回会議の中で米原市の教育について出たキーワードを説明した。

<p>学校教育課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりについて（資料3） ・前回に出たキーワードに関連して、現在市で進めている魅力ある学校づくりの事業について、学校教育課から資料3に基づき説明した。小学校・中学校の連携を縦糸、地域との連携を横糸と考え、縦と横の糸を太くしていくことで、学力・生活力・生きる力を育む「魅力ある学校づくり」の取組、地域支援コーディネーターを配置し、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進する「学校支援地域本部事業」の取組、中学校教員が小学生に授業を行う専科指導を推進するなど小中学校間の連携・接続を図る「小中連携教育推進事業」の取組について説明した。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次米原市総合計画七夕アンケートの集計結果について（資料4） ・第2次米原市総合計画の策定作業の中で小中学生を対象に実施したアンケートについて、資料4に基づき説明した。
<p>教育長</p>	<p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくり支援事業は2年前から予算を付け取り組んでおり、各学校が地域の実態に応じて、地域の人材と協力して地域の特色を出している。また、各中学校区で保幼小中の連携組織ができており、校園長の間での情報共有も活発に行っている。例えば、双葉中学校では、認定こども園が近いことから避難訓練を一緒に行ったり、大東中学校区では、小中で講師を呼び、学力向上に取り組んだりしている。教育フォーラムについても、地域の人を招き、開かれた教育フォーラムが開催されている。このように、市を挙げて学び合いの場づくりを進めている。これらを教育振興計画、教育大綱の中に取り入れていただけるとありがたい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりとあるが、魅力ある学校をどう捉えるか議論していくべきではないか。地域の人を学校に受け入れ、交流するのはいいが、それがプラスとなるものでないといけない。子どもが主体となる授業や、地域の人とともに体験しながら学ぶことが必要であり、その実現には地域のネットワーク構築が重要になるのではないか。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国においてもアクティブラーニングといった、子どもたちが能動的に学ぶことが求められている。魅力ある授業が魅力ある学校につながる。机の上の学びではなく、体験・実験していき、明日も勉強したいなと思える学校づくりが大切である。学校支援地域本部事業は、いろいろな人材が学校にやってきて教えてもらえる。小規模でありながらもいろいろな人の出入りによって学べる環境は、米原市の教育の特色にできるのでは

委員	<p>ないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は地域の中で学校という枠を外れてボーダレスになっている。しかし、開かれた学校とするには、子どもたちの情報や人権を同時に担保していく必要がある。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に地域の人に関わってもらい、人々の目が学校に注がれることによって、安全も高まっていくのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材が入ってくれることはいいが、どんな人が来るか、それを見る目や呼び込む力が教師に必要なになってくるのではないか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部事業は、コーディネーターが中心となって事業を行っている。地域をよく知るコーディネーターを通じ地域人材を探していただいている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校づくりの説明資料について、地域住民やボランティアと学校の間を横の糸として図示してあるが、矢印が学校への方向しかない。本来連携の中で学校が主体になるが、これからは生涯学習の視点から、学校支援ボランティア、地域の人と一緒に学び合っていくものではないか。地域全体が学んでいくことで、いじめ問題など子どもへの理解も深まるのではないか。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に提供する立場では、お互い長続きしないと考える。御指摘どおり、矢印は双方向がよい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力ある」という言葉は学校教育によく使われているのか。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の議論の中で、この言葉を使うようになった。ただし売りの文言ではなく最終的に目指すものは学力向上であり、魅力あるという言葉は、結果的にそうならんという思いがある。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・明日も学校に行き学びたいというのが一番の本質である。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・今月の市長訓示で話したことであるが、ある親から学校を選ぶ第一の条件として、いじめのない学校に子どもをやりたいたいと言われた。大事なことは、学校やPTAだけでなく、社会全体、地域全体が子どもたちを育て、その中で、もし、いじめや差別の問題が出たら、親や学校の責任でもなく地域の責任としてしっかりと向き合っていくこと。これに答える学校づくり、地域づくりが魅力ある学校づくりにつながっていくと考えている。

教育長	<ul style="list-style-type: none"> 学校は集団で活動する場であり、人格と人格がぶつかり合うことは避けられず、大なり小なりいじめもあるが、それをみんなの問題としてとらえて解決に向かう力を育てていく人権教育がベースにある学校であることが一番大事である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在の米原市教育振興基本計画の基本理念「学校・家庭・地域の絆で築く学びのまちづくり」を念頭に置いて次回は議論していくべきではないか。 米原市になって米原教育が何か芽が出かけている。他市から、米原の教育の印象を聞くと米原市は教育熱心であるという印象がある。米原市には先生方が一丸となって取り組んでいる風土があり、これらを大切にしていきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に絞られてしまう。米原市の総合教育会議として、社会教育も含めた幅広い分野を生涯にわたってみんなが学ぼうとする意欲、姿勢を培っていただきたいという思いがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> おっしゃるように社会教育も含め、視点を幅広い世代に向けてもいいのではと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある学校づくりの中で、校歌に着目している。校歌には米原の豊かな自然や歴史、伝統的な文化、校風や教訓、目指していく子どもたちの像などが歌詞の中に込められている。校歌に込められた意味を理解することで、ふるさとへの愛着、郷土の誇りにつながるのではないかと。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 特色のある学校づくり事業の地域学習について、米原教育とどうつながるのか。どの程度意図的に学習を行っているのか教えていただきたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 山東ではほたる祭りの取り組み、河南小中学校では鎌刃城へ登っての歴史学習、柏原学区では大野木の竹やぶでの体験学習、双葉中学区ではかぶと山でオオムラサキの生育に取り組んでいる。様々な地域で地域学習が定着している。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ある大学の新生生の誓いで、「私がこの大学に入学したのは、故郷に帰って地域の発展に尽くしたいからである。」と言った話を聞いた。その子は徹底した地域学習を受けてきたとのことである。米原教育でも自分の郷土に貢献していく人材の育成を掲げたい。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 郷土に誇りを持つ自己肯定感は人のために尽くしていこうというステージにつながる。この地域で学べてよかった、自分が育てられた、助けられた郷土に恩返しするという好循環が生まれる。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のひととともに歩むことについて、学校サイドで考えるとどうしても学校だけの校長でとどまってしまう。そこのところの意識改革が必要。学校にボランティアに行っても先生が協力的でなかったりする。校長は学校の中だけのトップではなく、地域の中でもコーディネートできる人でもあるべき。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校がどこまで地域に目を向けられるかは校長にかかってくる。また校長の思いを教師がどれだけ理解できているかが問われている。外から入ってくる人には、受け入れる先生の姿勢が学校の印象につながる。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側としても地域振興、自治振興を行っているものとして、その中にある学校の存在を別としてしまうことなく、地域と学校との関係をリードしたり、学校を取り込んだ地域計画をつくっていくべきである。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・国が進めているコミュニティースクールは学校運営協議会という組織が学校運営を進めている。このスタイルは大事である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で行っている職場体験では、たくさんの企業から協力をいただいている。学生が感謝状をつくり、学校で職場体験の発表会があるが、市で職場体験の発表会を開催して、企業を招くことができればさらに地域の広がりが生まれるのではないか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校単独で発表会をしているところは、お世話になった企業を招待しているが仕事があるので参加は少ない。市全体でできることはいい機会になるのでは。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・大人にとっても子どもと接する機会が減ってきており、子どもとうまく接することができない現状がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のキーワードに挙がっていた総合型スポーツクラブは、子どもと接する機会を増やすチャンネルであると考え。これまでは学校や企業の活動にウエイトが大きかったが、地域型のスポーツを推進することで市民は学校の子どもの接する機会が増え、さらに世代間での交流が行えるのでは。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのスポーツ振興、スポーツコミュニティづくりとして、総合型スポーツクラブがどれだけ地元で根を張るかが課題である。(山本教育長)

事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 次回の会議は、秋以降に行いたい。・ 庁舎等整備基本構想について簡単に説明を行った。・ 学校教育課から 11 月 13 日に伊吹小学校において、生活科・総合的な学習の近畿大会開催の案内を行った。 <p>5 閉会</p> <p>17 時 30 分終了</p>
-----	--

会議録（要点筆記）

会議名	第3回 米原市総合教育会議
開催日時	平成27年11月25日（水）16時～17時15分
開催場所	米原市民交流プラザ 2階 研修室
出席者および欠席者	<p>構成員</p> <p>平尾道雄市長、山本太一教育長、稲村邦夫教育委員長、河居郁夫教育委員、小路芙美恵教育委員、本庄通子教育委員</p> <p>事務局</p> <p>田中博之教育部長、岡田克美学校教育課長、仲谷良徳教育総務課長、藤岡保教育総務課長補佐、岩山光一こども未来部長、安食富美子こども未来部次長、山田英喜政策推進部理事、小寺真司政策推進課長補佐ほか担当職員2人</p> <p>傍聴者</p> <p>なし</p>
議題	・米原市教育大綱について
審議経過	<p>事務局</p> <p>1 開会 （事務局から開会あいさつ）</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>・10月29日に、今後の人口減少に立ち向かうための戦略「まち・ひと・しごと 米原創生総合戦略」を策定いたしました。この基本目標の1つに「滋賀県一子育てしやすいまちの創造」を掲げており、子育て、教育、文化の質の向上を図る施策を展開することとしております。その皮切りとして、先月には子どもの身体能力の向上や運動不足解消を図るための「子どもの健康増進プログラム」の施策推進に関する基本合意をNTTドコモおよび株式会社ルネサンスと締結いたしました。また、今月2日には、青山学院大学との連携協定を締結したところであり、これから、英語教育をはじめとした学習支援やスポーツマネジメントなどの面で連携を進めていきたいと考えております。このように、今後も米原市の将来を担う子どもをしっかりと育む取組に力を注いでまいりたいと考えております。</p> <p>今回は3回目の会議となり、これまで2回にわたり米原市教育大綱に盛り込むべき内容について熱心に御議論いただきました。本日は、これまで御議論いただいた内容をもとに事務局で作成した大綱の骨子案について御議論いただきたく、皆様から忌憚のない御意見を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>3 協議事項</p> <p>（1）米原市教育大綱について（資料1）</p> <p>事務局</p> <p>・事務局から資料1に基づき、米原市教育大綱の骨子案について説</p>

委員	<p>明した。</p> <p>これまでの2回の会議で出たキーワードをもとに、教育の基本理念および基本目標の案を示した。(別紙資料1)</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本理念は文字が多いと分かりにくい。ポイントを絞り、さっと口から出てくるような理念にすべき。次の3つの要素を入れてはどうか。1つは元気さ、いきいき、瞳が輝く、自ら学ぶ意欲など活気をあらわす文言。2つ目は学び合い、育ち合い、支え合い、ふれ合いなど、人から学ぶ、人と学び合う他との関係をあらわす文言。3つ目は鍛える、やり抜く、チャレンジするなどの文言を入れた方がいい。「ふるさと」という文言は入れて欲しい。「生きる力」と「心の豊かさ」は、文科省の学習指導要領の考え方からみると重なる部分があるため、「生きる力」を「心豊かでたくましい」としてはどうか。また地域とのつながりや市民全員参加を示す「合い」を入れて欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 私も基本理念は市民がすぐに言えるようなものが良いと思う。学校の職員室に貼ってあるような基本的な目指すべき方向性を示したものが良い。私も「学び合い」という言葉は入れるべきだと思う。近頃、市民の方が学校に来て講師をしておられる。これも「学び合い」だと思う。外せないセンテンスだと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念は、皆が覚えやすくわかりやすい言葉で完結されたものが良い。そして、そのあとの基本目標でいくつかの柱を持つようにした方が良い。「学び合い」に「出会い」をつけては、「出会い」という言葉は、人との出会いであったり、自然にふれ合ったり読書や芸術などいろいろな広がりがある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい文言がよいと思う。また、5年間やってきて定着してきた地域ふるさとを思うということを基本にして新しい理念をつくっていった方がよいと思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 10月、11月と学校教育以外の生涯学習やスポーツなどの行事に参加し、子どもと大人が関わりながら学んでいくことの重要性をすごく感じた。ルッチ大学の卒業の事例報告会でもまちかど遺産を見つめながら新たな発見をした話を聞いた。また、ボランティア活動をしておられる夢の翼さんの発表会を見たときに、子どもたちに自分の持っているものを何とか伝えたいという思いが伝わってきた。このように、就学前の子どもから大人に至るまで米原市は学びのまちであるということを大事にしたい。したがって、キーワードになっている「学び合い」という言葉が教育には大事だと思う。基本理念については、学校教育の職員と話してい

	<p>る中でもできるだけ短い方が良いということ、また、「人が輝く」という言葉は人権の尊重や自尊感情の高揚につながることから、これらを踏まえ、「学び合い 人が輝くまち まいばら」という基本理念としてはどうかという協議をしていた。基本目標の最後の「学び合い、育ち合い、支え合う教育の推進」これも良いと思うが、文言が多いといけないので「学び合い、育ち合い、高め合う教育の推進」というふうに「支え合い」を「高め合い」にしたらより求めて学ぼうとする次のステージに進むことができる。「ふるさと」という言葉は基本目標に入れるようにしたらどうか。</p>
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく口に出してもらえそうな理念が良いと思う。いくつか言葉のこだわりが出たので、もう一度事務局の方で叩いてください。そして基本目標についてもこだわりをどこに持つのか議論していつてはどうか。今は出会いを大事にしながらいろんな場所で学ぶことを喜びにしたり、新しい出会いやふれ合いで感動があったり、死ぬまで教わるものであるということが言われている。1億総活躍と言われているが、みんなが生き生きと輝くとか認め合うことが日本の中で定着しているのではないか。その中で米原は一步前へ出て米原の教育風土を見せていきたい。今、ルッチ大学をはじめ若い米原出身でない人たちがいろんな能力を発揮し始めている。そこに触発されているような形で新しいまちづくりが始まっており、まちの未来がつくられていると思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・市のスポーツ推進計画の目指すべき将来像に「希望と元気あふれるスポーツコミュニティ」を掲げている。これは、みんなが健康で長生きして共にコミュニティをつくりましょうという意味であり、みんなが共に体を動かして学び合っていくことと一緒であり、教育全般に通じる部分がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな人を米原に受け入れる土壌を整備していく必要があると思う。また、学びやスポーツを通じてコミュニティが広がることは生活を豊かにできるし、米原のイメージも良くなると思う。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・「出会い」という言葉はそのとおりだと思う。今進めている高齢者の居場所づくりである「お茶の間創造事業」の中でも新しい出会いが始まっている。これまでと違い70代になっても人の役に立つとか、人にあてにされているとかいうことがこの事業の中で出てきた。高齢者のイメージも変わってきており、労働力人口が減っている現状において高齢者の活躍に対する社会的要請もあり、人の役に立つという自尊感情にもつながっているような気がする。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習という面では、教員の資格を取って教壇に立っている教師にとって、そこがスタートである。教員の免許があるから一人前の先生ではない。そこから自分の研鑽があり、他から学ぶことがある。人は死ぬまで勉強である。地域のコミュニティも崩れかけている。そういった意味でも学びは自分だけのものではなく、「ともに学ぶ」という言葉もぜひ入れたいと思う。また、「瞳が輝き心豊か」、「たくましい」という言葉も入れたい。また、「学び合い」も入れたい。「学び合い、支え合い」の後ろに「高め合う」という気持ちを入れたい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 長野県が教育県と言われ、教育に熱心な県であるという印象があった。学び合う、支え合う、高め合う、そういう米原であるというまちのイメージもつくって欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 県下でも米原の先生は大変研究熱心でありたいと思っている。研究論文に自主的に取り組んでいただいております、優秀なものも集まっている。今も市長が言われたように教育大綱においても、米原市は教育に熱心であるということを出してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 米原市のシティセールスのロゴはわかりやすい。基本理念というと堅苦しいイメージがあるが、それを覆すように、印刷物の右下に常に基本理念が書いてあったりするようにすると、教育に携わっているものの身にしみるのではないかな。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合い」というのは、一つの手段であって、そのことによって人が輝く。米原は学びの宝庫であり、そこで人との出会いの中で学んで楽しかった。次に進もうという意欲、これも人が輝くということに全部つながっていると思う。他市の基本理念をみると、3つに絞った基本目標があって重点目標が出ている。米原市でも3つから5つの間でまとめるかどうかと思う。一つはふるさとに誇りを持つというのは、地方創生の面からしても必要だと思う。そこに住んでいる人がまずふるさとに誇りを持って、そして外からみても米原の素晴らしさも思ってもらおうという意味でもキーワードとして大事にして欲しい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> これからいろんなことを仕掛けていくには、市民や米原にいる人たちが米原はいいところだ、素敵なおところだということを実感しているという前提が必要である。ここでの子育ては心地よいというように、むしろ田舎こそ人間が育つには暮らすには最もふさわしい環境があるのだという教育システムが必要だと思う。それがふるさと教育やふるさと学習のみというだけでは成就しない。市民全体が米原はいいところだとみんなが言うためにどういう役割を果たすのかということをも是非基本目標の中に入れていただきたい。中央と地方の上下関係が平等になった今こ

	<p>そ地方が主張し始めることが大事になってきている。教育分野でもここがいいところだ、ここに留まれということを学校自体が教えて欲しい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・理念のたたき台として、「ふるさとを誇り、学び合い、高め合い、瞳が輝くまち まいばら」はどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・瞳と聞くと一人だと思ってしまう。人だと広いイメージになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとが輝くということは市全体が輝くということになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県の基本目標の中に学び合い支え合う「共に育つ」滋賀の教育とある。また、大きな目標の中で未来を拓く心豊かでたくましい人づくりとあり、米原市にもあてはまる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとを誇り人が輝く、学び高め合うまち まいばら」はどうか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び合い」の中に「高め合い」が入ってくるものだと思う。「学び合い」だけにしてはどうか。「学び合い」の中で喜びを感じて、学ぶ意欲につながる部分があると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本来は「学び合い」の後に「認め合い」が入っている。そして、「支え合い」、「高め合い」という風に4段階になっている。「学び合い」にすべてを含めるとしても良いと思う。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前に関しては、学びに向かう力を育てよう。学校では学ぶ力、生涯学習としては学び続ける力を大事にしたいと教育部では話している。「学び合い」という言葉が出てきたので、それだけでも良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとを誇り、学び合い、人が輝くまち まいばら」はどうか。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとを誇り」は基本目標の中でもいいような気がする。外からの転入も考えると、米原で子どもを育てたい、勉強をさせたい、生涯を暮らしたいというような方に対し、「ふるさとを誇り」という言葉を基本理念に出さない方が良いのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し新しい感覚が欲しい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・県の教育振興計画の中にも地域社会での一員としての子どもの位置というものがある。基本目標の中にどんな大人になって欲しいのか、本来どういう大人として磨く教育を進めていくべきなのかも基本目標の中に置くべきではないか。

事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本日の会議を受けて基本理念を練り直します。基本目標についてもさらに深めた議論をしていただきたい。・ 次回の会議は、教育振興計画の進捗状況をみながら開催いたします。 <p>5 閉会</p> <p>17時15分終了</p>
-----	---